【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成19年12月13日(2007.12.13)

【公開番号】特開2006-123255(P2006-123255A)
【公開日】平成18年5月18日(2006.5.18)
【年通号数】公開・登録公報2006-019
【出願番号】特願2004-312378(P2004-312378)
【国際特許分類】
Ｂ４３Ｌ　19/00　(2006.01)
Ｂ４３Ｍ　11/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ４３Ｌ　19/00　Ｈ
Ｂ４３Ｍ　11/06

【手続補正書】
【提出日】平成19年10月25日(2007.10.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
筐体から転写媒体を塗布した基材を送り出す一方で、被転写体に転写媒体を転写した後の基材を巻き取る転写具において被転写体に転写媒体を転写する転写部の支持構造であって、転写媒体及び基材を介して被転写体と接触する先端部に可動軸を設け、基材搬送方向と直交する方向に前記先端部を挟んで対向状に設けられた両壁面に被転写体と平行な長孔をそれぞれ形成し、前記両壁面の前記長孔に前記可動軸を各々配置したことを特徴とする転写部支持構造。
【請求項２】
長孔における基材の搬送方向の端部に、絞り部を介した枢支孔を該長孔から連続して形成したことを特徴とする請求項１記載の転写部支持構造。
【請求項３】
長孔における基材の搬送方向と反対の端部に、壁面縁部から切り欠いた切欠部を該長孔から連続して形成したことを特徴とする請求項１又は２記載の転写部支持構造。
【請求項４】
請求項１～３のいずれかに記載の転写部支持構造を備えたことを特徴とする転写具。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】転写部支持構造及び転写具
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】

本発明は、蛇行や円弧、直線状に転写媒体を転写させるときに、安定して転写具に力をかけることができ、蛇行、円弧、直線状のいずれの操作においても転写媒体を意図どおりにかつ確実に転写させることができる転写部支持構造及び転写具に関するものである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
本発明に係る転写部支持構造及び転写具は、可動軸が長孔内で揺動するから転写方向を変更することができるが、長孔が被転写体に対して平行となっているので不要な方向に可動軸が揺動しない。従って、転写媒体を蛇行状や円弧状に転写するときには安定して力をかけることができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
本発明の転写部支持構造及び転写具は、上記に加えて図３に示す形態でも実施可能である。すなわち、図３は、長孔２Ａにおける基材の搬送方向の端部に、絞り部２ａを介した枢支孔２Ｂを該長孔２Ａから連続して形成した構成である。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】
以下、本発明に係る転写部支持構造及び転写具の効果を確認する実験について説明する。実験は、１）転写媒体を３０°（ｒ＝５ｃｍ）の円弧の中心が基材搬送方向を中心として左右で交互に位置するように、つまり蛇行状に転写する、２）ｒ＝１５ｃｍから０．５ｃｍずつ半径を小さくして真円を描くように転写する、３）９０°（ｒ＝５ｃｍ）の円弧状に転写した後、２０ｃｍだけ直線状に転写し、これを連続的に３回繰り返す、ときの使用感、転写媒体の転写状況について確認した。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】
本発明に係る転写具は、上記転写部支持構造を採用することに特化しているので、それ以外の転写具の構成には特に限定はないが、少なくとも筐体、送出軸部、巻取軸部、及び転写部を備えた構成において本発明に係る転写具支持構造を採用すればよい。また、消耗部材、つまり転写媒体を塗布した基材とその周辺部品のみを交換するいわゆるカートリッジ式の転写具に採用しても上記と同等の作用効果を得ることができる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００４４】
【図１】本発明の転写部支持構造及び転写具の第１実施例構成を示し、基材搬送方向の側方から見た図である。
【図２】本発明の転写部支持構造及び転写具の第１実施例構成における図１のＡ－Ａ線断面図であり、（ａ）は紙面右曲がりの円弧を、（ｂ）は紙面左曲がりの円弧を、（ｃ）は直線を、それぞれ描くように使用している状況を示す。
【図３】本発明の転写部支持構造及び転写具の第２実施例構成を示し、（ａ）は円弧又は蛇行操作時の基材搬送方向の側方から見た図、（ｂ）は（ａ）のＢ－Ｂ線断面図、（ｃ）は直線走行時の基材搬送方向の側方から見た図、（ｄ）は（ｃ）のＣ－Ｃ線断面図、である。
【図４】本発明の転写部支持構造及び転写具の第３実施例構成を示し、基材搬送方向の側方から見た図である。
【図５】本発明の転写部支持構造及び転写具の第３実施例の他の構成を示し、基材搬送方向の側方から見た図である。
【図６】本発明の転写部支持構造及び転写具の第１実施例において先端部を代えた例を示し、基材搬送方向の側方から見た図である。
【図７】本発明の転写部支持構造及び転写具の第２実施例において先端部を代えた例を示し、基材搬送方向の側方から見た図である。
【図８】本発明の転写部支持構造及び転写具の第３実施例において先端部を代えた例を示し、基材搬送方向の側方から見た図である。
【図９】本発明の転写部支持構造及び転写具の第３実施例の他例において先端部を代えた例を示し、基材搬送方向の側方から見た図である。